

## 実績報告書

届出者	住所	大阪市此花区桜島2-1-33	氏名	株式会社ユー・エス・ジェイ 代表取締役 ジャン・ルイ・ボニエ
特定事業者の主たる業種		95その他のサービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社はフロリダとハリウッドにあるユニバーサル・スタジオをベースにしたテーマパークを運営しており、パーク内にはアトラクション施設、物販店舗、飲食店舗、事務所等がある。		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015 年	4 月	1 日～	2018 年	3 月 31 日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	63,429 t-CO <sub>2</sub>	65,122 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	68,907 t-CO <sub>2</sub>	70,625 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0 %	7.7 %	11.7 %	11.0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	7.8 %	12.0 %	11.2 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 建屋延床面積×平均営業時間/1000 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

密接な関係を持つ値の建屋延床面積及び平均営業時間の増加に対して、エネルギー総使用量の増加率を抑制出来たことにより、原単位ベースで11.2%の削減が出来た。
---

(2) 推進体制

テクニカルサービス部が中心となり、運用方法改善を中心とした省エネルギー化を推進します。  
また、部門横断的な省エネプロジェクトチームを継続して運用し、省エネルギー施策の浸透を図ります。  
電気の需要の平準化対策としては、コージェネレーション設備を活用しピークカットを行う。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	ユニバーサル・スタジオ オ・ジャパン	コード (1111) 省エネプロジェクトチーム	部門横断的な省エネプロジェクトチームを運用し、従業員への省エネ意識の浸透を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	ユニバーサル・スタジオ オ・ジャパン	コード (1218) 照明設備の省エネ	蛍光灯や水銀灯を、LEDやHIDランプに更新する。『H27年度に2500個交換』『H28年度に2450個交換』『H29年度に2860個交換』	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	ユニバーサル・スタジオ オ・ジャパン	コード (1216) 高効率機器の導入	電気式パッケージエアコンを最新機種に更新する。『H27年度に10台更新』『H28年度に15台更新』『H29年度に20台更新』	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	ユニバーサル・スタジオ オ・ジャパン	コード (1217) 高効率機器の導入	ガス給湯器をエコジョーズタイプに更新する。『H27年度に3台更新』『H28年度に3台更新』『H29年度に1台更新』	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	ユニバーサル・スタジオ オ・ジャパン	コード (1126) インバータの導入	送風機、ポンプ等の回転機器にインバータを導入する。『H27年度は対象箇所検討』『H28年度に3台導入』『H29年度に1台導入』	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 機器運転時間の管理	必要な機器を必要な時間だけ運転し、余分なエネルギーを使用しないよう管理する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7		GHG排出	ユニバーサル・スタジオ オ・ジャパン	コード (5231) コージェネ運転計画	過去電力使用実績より、コージェネレーションシステムの年間スケジュールを立て電力ピークカットを行う『4000kWピークカット実施継続中』	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


実績報告書					
届出者	住所	大阪府枚方市大峰南町10番1号		氏名	株式会社ユニオン 代表取締役社長 武村 康夫
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業			
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		ガラス製品の製造			

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	13,955 t-CO <sub>2</sub>	14,282 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	14,434 t-CO <sub>2</sub>	14,742 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	0.8 %	-4.7 %	-6.6 %
削減率（平準化補正ベース）			－ %	0.9 %	-4.8 %	-6.4 %
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量(トン))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

基準年度に対し、原単位で6.6%のCO2排出量が増加した。継続してエネルギー原単位の悪い製品について各プロセスにおいて原単位改善を進めている。前年はプロセス間での原単位も悪化、かつ製品収率も悪化した。エネルギー原単位の悪い製品に関して需要の偏りもありCO2排出量増加に繋がったと考える。

(2)推進体制

製品の需要に応じて設備停止できる場合、日中のピーク時間帯に選択的に停止する。

(3)温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社・工場	コード (1112) エネルギー原単 位の改善	成形炉Aにおける条件見直しを実施している が、需要の偏りが原単位を悪化させた。(平成 27年度 基準年度比 年間74t-CO2増加)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社・工場	コード (1112) エネルギー原単 位の改善	成形炉Bにおける条件見直しを行っているが、 製品収率が悪化したため原単位を悪化させた (平成27年度 基準年度比 年間573t-CO2増 加)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社・工場	コード (1112) エネルギー原単 位の改善	溶解設備での原単位向上に努めているが、溶解 量に対する生産量減少で原単位を悪化させた。 (平成27年度 基準年度比 年間717t-CO2増 加)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	本社・工場	コード (1113) エアー漏れ低減	エアー漏れ箇所の特定・修理を継続しており、着 実に効果が得られている。(平成27年度 基準 年度比 年間34t-CO2減少)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社・工場	コード (2213) 目的に応じた移 動手段の選択	自動車の保有台数を1台で運用し、優先的に公 共交通機関を利用するように努めている。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社・工場	コード (2221) 温室効果ガスの 少ない手段の選 択	関係者と協力して輸送方法の選択について常時 認識している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策


実績報告書					
届出者	住所	大阪府大阪市此花区桜島1-1-111		氏名	合同会社ユニバーサルホテルマネージメント 代表社員 オリックス不動産株式会社 職務執行
特定事業者の主たる業種		75宿泊業			
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者			
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者			
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者			
事業の概要		ホテル業 宿泊客室数：600室 宿泊最大人数：1,898人 1stレストラン客席数：300人 2ndレストラン客席数：200人			

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,344 t-CO <sub>2</sub>	5,587 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,651 t-CO <sub>2</sub>	5,903 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	-0.9 %	1.7 %	3.1 %
削減率（平準化補正ベース）			－ %	-0.8 %	1.7 %	3.2 %
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( 特定用途延床面積(m <sup>2</sup> ) × 客室稼働率(%) )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成29年度は温水ヒーター及び冷温水発生機の整備による効率改善図り、また水銀灯のLED化を実施したことにより削減目標の3%を達成することができた。

(2) 推進体制

平成27年度に改組した省エネ推進委員会の活動を強化し省エネ推進を図る。 に、各スタッフ部門があり管理部門が中心となり温室効果ガス排出削減を推進する。 防災センター（施設運用管理担当）は、管理部門の指示により温室効果ガス排出削減推進を補佐し、 施設運用管理面での温室効果ガス排出削減を推進する。		総支配人の下

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	ホテル ユニバーサル ポート	コード (1216) 空調温度の適正 運用	暖房温度を22℃～20℃とする。冷房温 度を24℃～26℃とする。ホテル営業エ リア・営業時間帯に合わせた運転スケジュール を設定し、不要な運転をしない。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	ホテル ユニバーサル ポート	コード (1218) 照明点灯の適正 運用	ホテル営業エリア・営業時間帯に合わせたタイ ムスケジュール及び調光スケジュールを設定 し、適正照度（演出）並びに未使用場所の消灯 を徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	ホテル ユニバーサル ポート	コード (1218) 省エネ電球の採 用拡大	省エネ電球（LED）の使用範囲の拡大	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	ホテル ユニバーサル ポート	コード (1218) 屋外大容量電球 LED化	屋外大容量（マルチハロゲン等）電球の LED化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	ホテル ユニバーサル ポート	コード (2123) 来館車両のアイ ドリングストップ 励行	ゲスト車両エントランス並びに駐車場でのアイ ドリングストップをPRする。 外来業者並びに搬入車両のアイドリングスタッ プを徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策
